

平成25年度

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 26年 1月 18日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2770901342		
法人名	社会福祉法人恭生会		
事業所名	グループホーム和朗園		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護事業所		
所在地	大阪府高槻市井尻二丁目37番8号		
自己評価作成日	平成26年1月18日	評価結果市町村受理日	平成26年4月11日

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/27/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/27/index.php</a>
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社H.R.コーポレーション
所在地	兵庫県西宮市松風町2-5-107
訪問調査日	平成26年2月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>「愛」と「和」の理念のもと、利用者の今までのあたり前の日常を維持することを目標に、共同生活の中で自らの役割を担い、達成感や満足感を得られるよう自信を維持できる援助に努めている。</p> <p>また、併設型のグループホームである強みを活かす為、一人の利用者を和朗園全体として支援出来る様な体制づくりに取り組んでいる。</p> <p>センター方式を取り入れ、利用者の生活歴や現状の把握に努め、サービス内容をより個別化し、調理・掃除・洗濯などの日常的な家事はもとより、買い物や、外出の機会を確保、また、ご家族・地域の方々の協力のもと花見、夏祭り、餅つきなど季節に応じた催し、日帰り旅行等を行い、ありふれた家庭での日常を提供できるよう取り組んでいる。総合病院が母体である為、緊急時対応についても安心感を得て頂いている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>特別養護老人ホームと併設のグループホームである。職員は利用者一人ひとりに視点を置いた支援の提供を行い、認知症ケアについて利用者だけでなく家族も支援し理解と協力を得ながらケアの充実を図っている。地域の中学生の福祉体験の受け入れや利用者と一緒に参加しての地域清掃など施設全体で地域との交流を行っている。また、広報誌を公民館・自治会へ配布し施設・事業所への理解を深めもらうように努めている。日常的に個別で買い物に出かけたり、施設周辺の散歩や施設内の畑やプラントナーへの水やり等戸外の空気に触れる機会をもっている。その他にも職員が作成した歌体操のDVDを用いて室内で運動を実施し下肢筋力低下予防を図っている。必要に応じて特養の理学療法士にも相談を行い、運動や移動動作など効果的に行えるように工夫・配慮している。</p>
--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	<p>○理念の共有と実践                      地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>施設としての理念があり、文書化し各所に掲示している。ミーティング時など、理念を唱和し、周知を図っている。新入職時にも説明し、浸透に努めている。また、理念実践の為、研修を行う事で職員育成に努めている。</p>	<p>理念を共有して実践していくために、具体的な取り組みが明示された年間計画を策定し定期的開催するミーティングを利用し職員全体で共有・検討していくよう努めている。年度末には活動の評価を行うなど、振りかえる機会を確保している。新入職員にはプリセプター制を取り、教育・指導を通じて理念についても理解と浸透を図っている。</p>	
2	2	<p>○事業所と地域とのつきあい                      利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>地域の学習会・清掃活動、学校行事等へ参加をしている。必要時には、協賛の形でも取り組んでいる。定期的に、広報誌の配布も行い、交流を図っている。</p>	<p>地域の中学生の福祉体験の受け入れや学習会など施設全体で地域との交流を行っている。地域で開催されている清掃活動にも利用者で行える範囲で参加を継続している。2カ月に1回発行している広報誌は公民館・自治会へ配布し施設・事業所への理解を深めてもらうように継続して行っている。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献                      事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>受け入れてもらえる雰囲気作りが出来にくいのが、広報誌や運営推進会議等を通じて発信している。</p>	/	/

4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み                  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>家族・住民・行政職員などの構成で、2ヶ月に1度開催し、議事録の掲示もしている。会議では事業所からの報告だけにならないように、参加者が意見を出しやすい雰囲気作りに努め、意見を活かせるようにしている。</p>	<p>偶数月に保険者職員、社会福祉協議会職員、自治会、利用者、家族の方を構成メンバーとして開催している。会議では、利用者の状況報告、事業所の活動報告を行い事業所への理解を促すと共に、参加メンバーからの意見や要望から認知症ケアについて学ぶ機会を持つことも行っている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携                  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>定期的に市の介護相談員が来所し、助言・意見交換を行っている。</p>	<p>運営推進会議への市職員の出席や会議の議事録の提出で事業所への理解と協力を得ることができる関係を構築している。月1回、介護相談員2名の来訪を受け、事業所の状況を把握してもらう他、意見や助言を受けサービスや運営に反映させるようにしている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践                  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる</p>	<p>基本的に身体拘束を行わないケアを実践している。周辺症状が強くなる方については、専門医との連携で対応する様にしている。また、拘束によるリスクや言葉による拘束についても研修会を行う事で理解を深め、自分達の取り組みを見直す機会を作っている。</p>	<p>年間を通じて計画的に虐待・身体拘束廃止の研修機会を取り入れ、参加できなかった職員へも伝達していくことで正しい理解に繋がるように努めている。日々のケアや言葉かけの時等に拘束につながりそうな場面があれば、職員間で注意を促し合い拘束をしないケア、虐待防止に取り組んでいる。</p>	

7	<p>○虐待防止の徹底                  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所不在での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>勉強会を開催し、意識の向上に努めている。</p>		
8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用                  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>法人内研修を年1回以上実施しており、権利擁護に関する制度について管理者、職員が学ぶ機会がある。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得                  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>利用者、家族には入居前に時間をかけて十分に説明を行っている。家族等も納得してもらっている。</p>		
10	<p>6                  ○運営に関する利用者、家族等意見の反映                  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>定期的に介護相談員が来所している。運営推進会議・来園時の声かけ等により、意見や苦情などを受け入れられる雰囲気づくりに努めている。また、意見箱を設置、アンケートの実施を行い、より多くの意見を取り入れる様に努めている。</p>	<p>年1回のアンケート調査、意見箱の設置、運営推進会議後に職員と家族が集まり話し合うなど意見や要望・希望を聴取するようにしている。アンケート調査の結果は集計し分析を行い、ミーティングの機会に全職員へ結果を含めてサービスや運営への反映を説明している。家族には、玄関への掲示で報告を行っている。家族からの意見や要望などから職員の接遇面や業務に取り入れ反映させている。</p>	
11	<p>7                  ○運営に関する職員意見の反映                  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>ミーティングや連絡ノートを活かし、職員の意見や提案を聞き入れる工夫をしている。また個人面談の実施したり、日頃から互いに話す機会を大切にし、思いを知ることにも努めている。</p>	<p>グループホームのミーティングの中で職員の意見や提案を聞き、話し合う機会を確保している。ミーティング前には職員から議題に対する意見等を聴取し、円滑に効率よく話しあいが行える様な工夫がされている。日頃から、リーダー・副主任等が職員からの話を聞く機会を持ち、運営に反映するように取り組まれている。出された案件等は申し送りノートにより職員全体で共有できている。</p>	

12	<p>○就業環境の整備                  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>充分とは言えないが、より向上に向け努めている。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み                  代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>施設全体の研修委員会や内・外部研修の案内を掲示し、自己啓発、資質向上の為に参加を促している。外部研修で学んだ知識の伝達研修もしている。経験・習熟度による個別研修も実施している。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上                  代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>不十分ではあるが、外部研修の一環として他施設での実習があり、そこで施設の見学や意見交流する機会がある。また、グループ内の他施設へ実習する機会も設けている。学んだことを、ケアの実践に活かし、サービスの質の向上に努めている。</p>		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係                  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>利用前には必ず本人との面談を行い、話を聞く機会を確保している。また、申し込み時には出来るだけ本人・家族で見学に来て頂き説明を受けて納得してもらった方に申し込んで頂いている。</p>		

16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>本人・家族との面談・施設見学を含め、その後も密に連絡を取ると共に、担当ケアマネとも連携をとり、不安なこと、求めていることを受け止めるようにしている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入所状況や本人の能力に合わせて、他のサービスや施設への案内・提案や趣味嗜好なども勘案しながら対応に努めている。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>家事の仕方や昔からの習慣、草花の名前・調理等、教えていただくことを主体にしている。外食・ウィンドウショッピング等、一緒に外の空気に触れただけ機会も多くしている。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族と、面会時や、電話連絡でケアへの取り組みについて、相談し、共に協力して、本人を支えていく関係を築けるように努めている。外出や行事等に家族も参加をしている。</p>		

20	8	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援                  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>それまでの生活で培った地域関係を大切にし、良い関係が継続できるようにしている。また、知人の面会の受け入れ、家族協力の下での外泊等、入所＝特別な生活にならないよう今までの生活が継続出来る様に努めている。</p>	<p>知人や友人の面会があれば気持ちよく関係が継続できるように支援している。また、馴染の喫茶店の利用、墓参りや冠婚葬祭への参加を支援するなどこれまでの人や場所の関係が継続できるよう家族の協力や理解を得ながら支援できるよう努めている。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援                  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者同士の関係に合わせ、座席の配慮・趣味の共有などで、関わりあえるよう努めている。</p>	/	/
22		<p>○関係を断ち切らない取組み                  サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退所後も希望がある場合、継続して相談に乗れるようにしている。</p>	/	/
<p><b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b></p>					
23	9	<p>○思いやり意向の把握                  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>自立支援を図る為に出来ること、やりたい事についてはさりげない支援をこころがけている。居室環境も、なじみ・思い出を大切に出来るよう、家族にも働き掛けている。</p>	<p>センター方式を活用し利用者の今までの生活スタイル、思いや意向の把握に努めている。思いや意向は日々変化していく為、半年に一度は必ず見直しを行い追加の特記は赤で記入し、日付を入れるなどして分かり易く記載する様に取り組みされている。</p>	

24	<p>○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める</p>	<p>本人や家族、関わりのある関係者より情報を得てその都度センター方式を更新している。</p>		
25	<p>○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>個々に出来る事や望んでいる事を引き出し、把握する様にしている。日常の何気ない会話や仕草等の観察を通して把握できるように努めている。</p>		
26	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>10 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>アセスメントに家族の協力を得るなど、関係者に協力を依頼しながらケアの方針を考えている。</p>	<p>センター方式の情報シートの記入例と共に書式を家族に渡し、家族がわかる範囲で記載してもらっている。センター方式を利用して利用者の状況や状態などを家族の協力を得て収集してアセスメントを実施し、初期の介護サービス計画書の作成を行っている。初期の介護サービス計画策定から約1カ月程度でモニタリング・ケアカンファレンス・再アセスメントを実施し計画の見直しを実施している。その後は6カ月毎に計画作成担当者・担当職員が中心になりカンファレンスで意見や気づきをとり入れ計画の見直しを行っている。経過記録②には、利用者の様子や観察されたことがSOAPでわかり易く記載されている。</p>	<p>今後も経過記録に利用者の状態、観察、状態・観察からの判断・アセスメントから行動の計画が明確化が充実するように努めることが望まれる。</p>
27	<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の様子や実施内容について、個別に記録し、職員間で情報共有する事で、一元的にならないよう見直しに活かしている。</p>		

28	<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>家族の状況に応じ、出来るだけ通院送迎・外出などの支援も行うように努めている。又、併設事業所との協力も行ないながら、和朗園全体で支援出来る様に努めている。</p>		
29	<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>出来るだけ地域イベントを含め、交流・支援環境を作れるように努めている。</p>		
30	<p>11 ○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人及び家族の希望を大切に、今までのかかりつけ医を継続できるように支援している。又、併設クリニック・系列母体の病院との協力体制も確立でき、どちらも選択し、頂ける様にしている。</p>	<p>利用開始時に利用者・家族の希望のかかりつけ医を聞き、受診の継続ができるように支援している。法人外の医療機関へ受診する時には、受診に至る経緯や日常の様子等を記載した用紙で情報提供を行うなど円滑な診察につながるよう支援している。併設のクリニックで2カ月毎に胸部レントゲン撮影や採血等の検査を受け、配置されている看護師と連携し健康管理を行っている。身体状況や病状に急な変化があれば、特養の看護師にいつでも相談できる体制の整備をしている。</p>	
31	<p>○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとれた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>随時、看護師に日常の健康管理について相談している。</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院中の状況について、同意を得たうえで家族や病院関係者と連携を図っている。</p>		

33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援                  重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>グループホーム利用が困難になること等を想定して、時々家族とも話し合っている。系列施設との体制を確立しており、地域で支援できるようにすることで、本人・家族の安心感も得られるようにした。</p>	<p>重度化の指針については、契約時より説明し理解と同意を得ている。指針は説明時に書面を渡している。今年度は急な病状・身体状況の変化があり、施設への移動等による利用者への負担を考慮し、医師・家族・職員相互の理解と協力で看取りの支援を行った。重度化の段階に応じて家族・医師と話し合いを行い、適切に支援を受けることができるように利用者・家族の意向に応じて支援方法を検討し対応するようにしている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え                  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>応急手当普及員による普通救命講習を開催している。また、急変時の初期対応マニュアルを準備している。</p>	/	/
35	13	<p>○災害対策                  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回の防災訓練を実施している。利用者も参加し、実際に避難している。グループホームでの夜間想定訓練も実施。</p>	<p>年2回防災訓練を施設全体で実施している。訓練では消火・避難訓練を昼夜想定で実施している。備蓄も施設全体で行っている。</p>	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保                  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>常に利用者一人ひとりの人格・人権を考え、自尊心を大切にすることに対応している。又、職員研修・誓約書による体制も敷いている。</p>	<p>倫理・法令遵守と共にプライバシーについてもグループホーム内研修会を実施し理解を深めるように取り組んでいる。ミーティングの中で利用者への羞恥心に配慮した排泄介助時の声かけなど注意を払う必要があることを話し合い、周知するようにしている。日々のケアの中でもプライバシーや尊厳に触れるケアが見られる時には、注意を促している。</p>	

37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>筆談やジェスチャーも取り入れ、本人の希望が聞けるように工夫している。また、日常の会話でも、希望を引き出せるような会話を心がけている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>1人1人のペースや好みを把握し、それに応じた声かけのタイミングや方法に配慮している。食事や外出の際の組み合わせにも、常に配慮している。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>行きつけの美容院に行けるような支援や外出の際には、外出用の服装になるように支援している。祭りやイベントの時は、家族と連絡しながら、季節や希望に合わせた服装が着られるように努めている。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>調理・配膳・食器洗い等も、出来る限り利用者の意見を取り入れ、職員と共に行うようにし、楽しめるように声かけや方法を工夫している。調理方法を一元化しない・自家栽培野菜の利用などの工夫もしている。</p>	<p>調理・配膳・後片付けなど利用者の希望やできることを活かして職員と一緒にやっている。特養の管理栄養士の立てた献立の食材が届けられ、各フロアで調理をしている。利用者の参加が偏らないように当番も決めている。施設内の畑で収穫できた野菜をメニューに取り入れ季節を感じることもできるようにしている。外食する機会を提供するなど楽しみがある食事を心掛けている。おやつはグループホームで買い物に行き購入したり、手作りしたりしている。</p>	

41	<p>○栄養摂取や水分確保の支援                  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている</p>	<p>管理栄養士が作成したメニューを参考に調理している。10時と3時をおやつの時間に決め、1人1人の嗜好に応じた飲み物を用意する等している。(栄養補助食品・ドリンクなども考慮)</p>		
42	<p>○口腔内の清潔保持                  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>利用者の状態に合わせて、声かけや見守り・一部介助の支援をしている。協力医療機関、歯科衛生士のアドバイスも受けながら、1人1人にあった口腔ケアを行うよう努めている。</p>		
43	<p>○排泄の自立支援                  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄パターンの把握、本人に合わせた時間での誘導を行ない、トイレでの排泄が出来るように努めている。また、食事や水分の摂取や日中の活動にも配慮している。</p>	<p>必要な利用者ごとに排泄チェックを行い、排泄パターンを把握し、それぞれに合わせた支援を行っている。その為、パターンに変化があれば情報の共有を図り状態に応じた支援の見直しを行っている。</p>	
44	<p>○便秘の予防と対応                  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>自動販売機にコーヒーを買いに行く等、ただ歩くだけの散歩にならないように工夫し、運動への参加を促している。又、1人1人の嗜好に応じた飲み物を用意することで水分摂取量の確保に努めている。</p>		

45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>入浴時間を夜間にする事で、少しでも今までの生活に近づけるようにしている。本人の要望により、入浴されない場合、日にちを改めるなど、本人のペースに合わせられるよう配慮している。</p>	<p>以前より利用者・家族の希望があった夜間入浴を、今年度より夜勤職員の充実により開始している。保湿成分の入った入浴剤の導入により利用者の皮膚の保湿を行っている。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>夜には照明を落とし、静かにするようにしている。本人の様子に合わせて休息を促し、その際は居室の室温や換気に注意している。</p>	/	/
47		<p>○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>医師・看護師からの説明を理解し、共有している。変更ある場合は家族にも伝えている。また、利用者の状態に変化がある時は速やかに相談するようにしている。</p>	/	/
48		<p>○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>1人1人の希望や能力に応じて調理等の家事・畑仕事など役割分担している。又、外出・習字や歌を歌ったりと、希望に合わせて楽しみを提供するようにしている。</p>	/	/

49	18	<p>○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>個々の希望に応じ、外出機会を得られるように計画。随時、散歩やドライブに行き、畑・ベランダ園芸など個別支援にも心がけている。また、本人の希望に合わせ、家族へも働きかける様にしている。</p>	<p>個別に買い物に出かけたり、施設周辺の散歩を行っている。施設内の畑やプランターへの水やり等の世話も個別に支援している。職員が作成した歌体操のDVDを用いて、室内で運動を実施し下肢筋力低下予防を図っている。必要に応じて特養の理学療法士に相談を行い、運動や移動動作など効果的に行えるように工夫・配慮している。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>希望や能力に応じて、一緒に買い物に行き、支払いをして貰っている。家族とも金銭に関わるトラブルと金銭を使う意味を話し合っている。</p>	/	/
51		<p>○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話の取次ぎや、公衆電話に電話をかけるに行ったり、年賀状を出したりと、家族や大切な人とのコミュニケーションが取れるようにしている。また、携帯電話を持参されている方もおられ、自由にコミュニケーションが取れる環境が出来ている。</p>	/	/
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>カーテンを開け自然の光を取り込み、閉塞感が無い様に外の景色が見渡せるよう配慮している。玄関には季節の花を飾り、季節に応じた飾り付けを行っている。台所では食事毎に調理の音や匂いにするなど、利用者が居心地良く過ごせるよう、家庭的で馴染みある雰囲気作りを心がけている。</p>	<p>自然光が差し込む明るい共用空間に家庭用の食器棚を設置し、食器も陶器にする等家庭的で馴染みの良い物に変更している。室内にソファを置きゆっくりと寛げるように配慮されている。壁面には利用者と共に作成した作品の展示を行ったり、写真の掲示も家庭的雰囲気を出すような配置・掲示を行っている。</p>	

53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>何ヶ所かに椅子やソファを置くことで、各々が好みによって使えるようにしている。</p>		
54	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>馴染みのタンスやテーブルセット、食器、趣味の物等を持って来て頂ける様に家族協力もお願いしている。ベットや家具も、本人の希望に応じ、配置している。</p>	<p>家族の理解と協力を努め、利用者の馴染みの使い慣れた調度品の持ち込みを促し、安心して過ごせる空間づくりを行っている。</p>	
55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>食器の洗い方を表示したり、入浴時の洗剤に「頭」「身体」等の表示、また、整理タンス・洋服タンスに、衣類の分類が分かるように表示する等、工夫している。</p>		

**V アウトカム項目**

56	<p>職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる</p>	○	<p>①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんど掴んでいない</p>
57	<p>利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある</p>	○	<p>①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない</p>
58	<p>利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている</p>	○	<p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない</p>
59	<p>利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている</p>	○	<p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない</p>

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての利用者として ②利用者の3分の2くらいとして ③利用者の3分の1くらいとして ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない